

開 会 挨拶

坪 内 良 博

平成7年度も終わりに近づき、この重点領域研究が恒例とするシンポジウムを開催することになった。今年はB02班の山影さんとB01班の西村さんのご尽力で、「地域連関」を主題として組織していただいた。今回のシンポジウムの特色は、「東南アジア」を「形成されたもの」として捉える点にある。これは、この重点領域研究のもう一つの柱である、生態環境に着目して東南アジアを位置づけようとする考え方とは、ある意味では対立する局面を含む発想でもある。生態を重視して社会を捉える根底には、「東南アジアは元々存在する」という考え方があるからだ。

「東南アジア」をどう考えるかが、この一見くい違う考え方を整理するカギになるだろう。「存在する東南アジア」と「形成される東南アジア」をめぐる議論が展開されることになるかと思うが、この議論は地域研究にとっては、今や古くなった言葉で言えば、下部構造と上部構造を繋ぐ大事な作業になるかもしれない。地域の設定、あるいは認識において、地域連関がどのような位置づけを与えられるかも興味深い。

この重点領域研究も、まもなく最終年度を迎えようとし、地域研究が次第に輪郭を明らかにしてきた過程が見えるような気がする。二日間のシンポジウムが有意義に進行することを念じ、挨拶に代えさせていただきたく思う。